

タウンミーティング「未来のまちづくりを語る会 2019」

タウンミーティングは、市民と市長が対話する機会として開催しました。

当日は、多くの市民に参加いただき、まちづくりワークショップで検討された提案内容を発表いただくとともに、市民からさまざまな提案をいただきました。

①開催日時とテーマ

開催日時	場所	参加人数
令和元年 10 月 9 日（水） 19 時～20 時 10 分	竜王北部公民館 4 階ホール	63 人

②プログラム

- 1 開会
- 2 市長あいさつ
- 3 職員紹介
- 4 「第2次甲斐市総合計画（後期基本計画）」及び
「第2期甲斐市まち・ひと・しごと創生総合戦略」について
- 5 内容
 - （1）私たちが考える未来の甲斐市
市民ワークショップ「K A I みらいデザイン」成果発表
 - （2）会場の皆様からの提案
「私が考える理想のまち」と「実現のために必要なアイデア」
- 6 市長講評
- 7 閉会



私たちが考える未来の甲斐市



会場の皆様からの提案

③会場の皆さまからの提案

- 農地、緑地の保全について考えていく必要がある。篠原地域で個人所有の樹齢300年以上の松が病気で枯れてしまったことがあった。樹齢300年以上にもなるような樹木は、仮に個人の所有であっても、行政で保全するような措置はできなかったのだろうか。また、緑地についても固定資産税を払うのが大変で、安易に太陽光発電を設置してしまうこともある。緑地を残していくことは、子どもたちにも大事なことである。

農地についても、「やはたいも」農家が減少していく中で、どのようにして特産品を残していくかをみんなで考える必要がある。

- すずむしの会から「緑の多い公園」をつくるとあり、いろはの会からも「公園の整備」との提案があるが、子どもから高齢者まで、自由にのびのびと体を伸ばせるような場所が欲しいということだろうと思うが、甲斐市には「ドラゴンパーク」などの公園があるが、あえてこういう意見が出るということは、使いにくいということがあるかもしれないし、市役所にもっと近いところ、徒歩でも行けるところ、そんな立地条件のところがあればいいなということが、内包されているのではないと思う。

私はいつも県の緑化センターを散歩しており、甲斐市が県から払い下げを受けるとのことであるが、ここはある程度の広さもあるし、いい土地だと思うので、ぜひ大切に、慎重に考えてやっていただきたいと思う。

公園等、施設をつくることは維持費もかかるので、これから人口が減少し税収も減っていく中で、効率よくお金を使えるような施設を目指さなければならない。

- 市民ワークショップの「いろは会」の中で、「全市的イベント」を提案した。若い人に人気のある芸能人などを呼んだイベントができないかと思っている。
- 自治会単位でいろいろな活動をやっているが、一般の方が参加してもらうことが難しい。提案のあったように行事を作って機会を増やすことも良いと思うが、行政からも自治会活動へのバックアップをお願いしたい。

- 市民ワークショップでは、中学生が非常に積極的に活動を行っており、甲斐市の将来は有望であると感じた。

特色ある地域産業の振興について、甲斐市は甲府市の裏手にあたる地域であり、昇仙峡でも観光客は甲府市へ行ってしまう。また、山間部としては、清川地区には茅ヶ岳があり、「日本百名山」で有名な「深田久弥」がなくなった場所である。茅ヶ岳を整備して、牧場などをつくり、自然と調和できるような施設を整備したい。

- 「すずむしの会」と「いろは会」から公園の整備の提案について、東京の六本木ヒルズの公園では、イルミネーションなどのさまざまなイベントをやっており、まちの賑わいの創出には、緑地や公園でイベントをやって、市民が中心となって賑わいを創出したい。
住んでいる人が誇りと愛着を持てるよう、市民と20代、30代の若者と話し合いをして、検討してまちづくりを進めてほしい。
- 特産品、農産品について、これまで夏から秋にかけてのイチゴはなく、ほとんどが輸入品であった。青森県では、「夏秋イチゴ」の栽培に若者が携わり、地域活性化を図っている。
行政は、全国の事例等の情報の収集をして、若者を巻き込むような新しい発想で果樹や特産品の開発に力を入れていただきたい。
- 現在、国際交流事業の一環でオーストラリアのタラマラハイスクールの生徒が訪れており、玉幡中学校でも生徒の訪問を受けた。子どもたち同士で交流を行う、とても有意義な機会を得ることができた。
人種や性別などを越えた交流は、子どもたちだけではなく、大人にとっても非常に大切なことだと思う。ソフト面において障壁を乗り越え、ともに共生する社会を作り上げる必要がある。
労働人口が減少する10年後、20年後にはおそらく外国人労働者が甲斐市にも入ってくると想定できる。そのときに、今の子どもたちはきっと対応できると思う。
自治会活動などにおいては、男女共同参画だけでなく、異文化や国籍の違いを乗り越えて、人口減少社会に対応していく必要がある。
- 創業後、SDGsの研修を年4回ほどやっている。その中で、働く場所がないという意見が多くある。自身は、創業時にたまたま近くの空き家を利用することができ、負担を抑えることができたが、創業のしやすい環境整備を進めていただきたい。
現在は、利子補給や金融機関の紹介などが主であるが、会社をつくるコストを下げるような、例えば空き家を紹介してもらえとか、コワーキングスペースであるとかが必要である。実際に経営者が集まって賑わいが生まれ、そのつながりで事業をしているところが韮崎市や甲府市にはある。
会社をつくる敷居を下げる、または、フリーランスが使えるスペースなどができたら良いのではないかなと思う。